

日本語の文における「のに」と「ために」の使用
(形態統語論と意味論からの考察)

ユスフ スプリヤトナ

1742014



マラナタキリスト教大学

文学部日本文学科

バンドン

2021

序論

日本語には、目的を表す接続詞「のに」と「ために」である。接続詞は品詞分類を含む。文脈によっては、使い方が違うようである。その理由は外国語の学習者に難しいである。

この本論文では、文の構造と意味に基づいて、接続詞「のに」と「ために」の使用について説明である。「のに」を使うとき、「ために」を使うときの規則を説明である。

本論

「のに」と「ために」は庵(2000:190-230)によると、接続詞理由目的を含む。目的を表す接続詞「のに」は辞書形式の動詞（V-る+のに）に付加する必要がある。目的を表す接続詞「ために」は、辞書形式の動詞（V-る+ために）と名詞（N+の+ために）の両方に付加できる。

「のに」は砂川(1998:474)によると、動詞の辞書形を受けて、目標を表す。「...するために」に言い換えられるが、後ろに続くことばは「使う」「必要だ」「不可欠だ」などに限られており、「...するために」ほど自由ではない。つまり、「のに」の使用は、オブジェクトの使用を表現することに限定されている。「ために」は砂川(1998:202)によると、目的を表す。「...ために」が目的を表すには、前後の節の主語が同じでなけ

ればならない。つまり、目標を達成するために誰かが行った活動について述べている。

1. (6) あの粉はケーキを作るのに使います。(SMJG, 2016 : 46)

この文は、オブジェクトの使用法を示している。この文では、「のに」は「ために」の代わりに使用することはできない。なぜなら、目標を達成するために実行された活動を示すときに、接続詞「ために」が使用されるからである。

2. (41) 日本人は会社のためによく働きます。(ADBJG, 1986 : 449)

この文は、目標を達成するために実行された活動を示している。「ために」は「のに」の代わりに使用することはできない。なぜなら、「のに」はオブジェクトの使用法を示している。

結論

目的を表す接続詞「のに」は辞書形式の動詞（V-る+のに）に付加する必要がある。意味はオブジェクトの使用法を示している。

目的を表す接続詞「ために」は、辞書形式の動詞（V-る+ために）と名詞（N+の+ために）の両方に付加できる。目標を達成するために実行された活動を示している。

DAFTAR ISI

HALAMAN JUDUL.....	i
LEMBAR PENGESAHAN	ii
HALAMAN PERNYATAAN ORISINALITAS.....	iii
PERNYATAAN PUBLIKASI SKRIPSI.....	iv
KATA PENGANTAR	v
DAFTAR ISI.....	vii
BAB I.....	1
PENDAHULUAN	1
1.1 Latar Belakang Masalah	1
1.2 Rumusan Masalah	7
1.3 Tujuan Penelitian.....	7
1.4 Metode Penelitian dan Teknik Kajian.....	8
1.5 Organisasi Penulisan	9
BAB II.....	10
KAJIAN TEORI	10
2.1 Morfosintaksis	10
2.1.1 Morfologi	10
2.1.2 Sintaksis	12
2.2 Semantik.....	15
2.3 <i>Setsuzokushi</i>	18
2.4 <i>Noni</i>	21
2.5 <i>Tame Ni</i>	23
BAB III	26
ANALISIS PENGGUNAAN <i>NONI</i> DAN <i>TAME NI</i> DALAM KALIMAT BAHASA JEPANG	26
3.1 <i>Noni</i>	27
3.2 <i>Tame Ni</i>	42
BAB IV	57

SIMPULAN	57
DAFTAR PUSTAKA	61
LAMPIRAN.....	x
DATA.....	x
RIWAYAT HIDUP.....	xxi

